

野外学習テキスト「森の誕生と変遷を学んでこよう！」



野外学習テキスト「有珠山で森の誕生と変遷を学んでこよう！」高校生の学習にぴったり。

夏本番を迎え、森の緑も濃くなってきました。洞爺湖有珠山周辺にはいくつもの散策路がありますが、目にする植物が少しずつ違います。

例えば、噴火から約15年が経過した金比羅火口災害遺構散策路。噴火したばかりの頃はほとんど植物が見られませんでした。現在はオオイタドリやヤナギ、ハンノキ、シラカンバなどが生え始めています。

一方で、噴火から約100年が経過した四十三(よそみ)山フットパス。ここではミズナラ、ハリギリ、カツラなどの大きな樹木が見られます。ササが少なく、シダ類が多いのも特徴です。

数十年おきに噴火をくり返す有珠山周辺では、「森のはじまり」「成長中の森」など、年齢の違う森を観察することができます。

学校の授業では、高校の科目「生物」で「植物の遷移」を学びます。そこで全国の高校生に、洞爺湖有珠山ジオパークで学んでもらえるよう、野外学習テキストを製作しました。観察地点や観察・記録の方法などを紹介し、自然から学ぶ楽しさをサポートする内容です。

伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町内の希望学校に配布しているほか、当協議会のHPで公開しています。

「外来種」とは？～他の地域からやってきた生物たち～

人間の活動によって他の地域から入ってきた動植物などの生き物のことを「外来種」といいます。農作物や家畜、ペットのように輸入されてきたもの、荷物や乗り物に紛れてやってきたものもあります。

外来種の植物の中には、もともとその地域で生きていた植物の生育場所を奪ったり、近い種類の植物と混じりあってしまうものがあり、地域の生態系を壊してしまうことにつながるため、世界的な問題となっています。

洞爺湖周辺ではアメリカオニアザミやノラニンジン、オオハンゴンソウなどが増えており、注意が必要です。

アメリカオニアザミ



葉・茎にとっても硬いトゲがある。鎌で切り取るか、根ごと取り去るのが有効。駆除後に種が飛び散らないよう、可燃ごみとして処分を。

ノラニンジン



「ニンジン」という名前がついているが食べられない。ヨーロッパ原産、戦後移入したと考えられる。繁殖力がかなり強い。